

幸せ

耕中学校

中村

佳穂

私は去年の夏休み勉強や部活に励んでい

た。部活はバドミントン部に入部していて

週五日三時間という長い時間全カでプレ

ーをしていた。市で二位というプレッシャ

もあり、正直身体には疲労が溜まっていた。

しかし私は部活ではハードなメニューに全

力を取り組んでいた。

そんなある日私は急に高熱が出た。か

かりつけの小児科の先生に見てもらいお薬

を処方してもらったがそれでも熱は下が

らず口の周りにはぶつぶつとできものがで

ていた。急いで病院に行き検査をするそ

ろの病気に同時に感染していて即入院に

な。た。初めての出来事で頭がっついていか

なかつた。

その日の夜初めて私は夜ご飯を食でる

ことができた。食欲はなく、動くにも

体がさっか。それより、口が開か
 まともに水も飲んだり、話したりするこ
 難し。口に何か触れただけで痛か
 し。しかし毎日、私のために栄養を考
 作。てくねて、いる人に申し訳なく思
 も、口にスプーンを入れることさ
 かつた。また、一人でご飯を食べ
 も寂しく、さらに食欲はなくなり、い
 族で食っているありがたさにも気が
 んな。つらく、苦しい日々が一週
 一週間後、点検のお陰で私は喋るこ
 まるくらい病気が治り、ご飯もだ
 べうねるようになった。その後私は無
 退院し、家で一週間ぶりのご飯を家
 た。その時感じた、ご飯を食べるこ
 る、お米を食べること、が、生きる
 で感じたこと、がない。感情だ。ま
 一人で食べていたとき、誰かと食
 べ、ご飯は、みんなにも美味しく、あ
 か。たん、だ、な、い、家族の大切さ、誰か

「ご飯を食べる幸せを改めて知った。」
このような夏休みを過ごし、私は「食に對する意識が変わった。」以前までは「ただお腹が空いたから食べて、満足していた。」しかし、今では食べ物一つ一つ、お米一粒一粒が大切で、毎食一粒も残さず食べている。そんな経験をして、私は今、管理栄養士を目指して勉強している。私のようなスポーツに全力で取り組んでいる選手も、食生活の面でサポルトしたいと思う。だからだ。そして今、私はスポーツに全力で取り組み、ご飯を食べることを「ご飯を食べること」に、感謝している。あの自感いた幸せを一生忘れない。